

統計データから見た 沖縄の農林水産業

統計調査 一人一人の協力
ありがとう



政府統計

内閣府沖縄総合事務局農林水産部統計調査課

令和3年2月

はじめに

この小冊子は、沖縄県の農林水産業の現状について、分かりやすくグラフ等で紹介するための資料として、最新の農林水産統計調査の結果を用いて作成したものです。

利用者のために

- 1 統計数値は、原則として下表の基準によりラウンド(四捨五入)したため、計と内訳が一致しない場合があります。

原 数		7 桁以上 (100万)	6 桁 (10万)	5 桁 (万)	4 桁 (千)	3 桁以下 (百)
ラウンドする桁 (下から)		3 桁	2 桁	2 桁	1 桁	ラウンドしない
例	ラウンドする 前の数値	1, 234, 567	123, 456	12, 345	1, 234	123
	ラウンドした数値	1, 235, 000	123, 500	12, 300	1, 230	123

- 2 統計表中に使った記号は、次のとおりです。

「－」		事実のないもの
「…」		事実不詳又は調査を欠くもの
「0」		単位に満たないもの
「△」		負数又は減少(下落)したもの
「x」		秘密保護上統計数値を公表しないもの
「…」		未発表のもの



このマークは、統計法に基づく国の統計調査であることを示し、調査票情報の秘密保護に万全を期すことをお約束するものです。

目 次

1	沖縄県の概況	1
2	農家数、農業就業人口及び耕作放棄地面積	2
3	耕地面積	3
4	水稻の作付面積及び収穫量	4
5	さとうきびの収穫面積及び収穫量	5
6	野菜の作付面積、収穫量及び出荷量	6
7	パインアップルの収穫面積、収穫量及び出荷量	7
8	花き(切り花類)の作付面積及び出荷量	8
9	家畜の飼養戸数及び飼養頭羽数	9
10	さとうきび生産費	11
11	農業産出額	12
12	青果物の卸売数量及び卸売価格	14
13	生乳及び飲用牛乳等の生産量	15
14	林野面積・林家数及び林業産出額	16
15	漁業生産量及び漁業産出額	17
16	農業・農村及び漁業・漁村の6次産業化	18
付録	沖縄の農林漁業主要指標	19

1 沖縄県の概況

■面積、人口、総生産等

【面積】

総土地面積	228,300ha
耕地面積	37,500ha
水田面積	820ha
林野面積	111,196ha

【人口・就業者数】

総人口	1,433,566人
男性人口	704,619人
女性人口	728,947人

総就業者数	589,634人
第1次産業就業者数	26,593人
第2次産業就業者数	81,508人
第3次産業就業者数	433,334人
(総就業者数は分類不能産業を含む。)	

【世帯数】

総世帯数	560,424世帯
総農家数	20,056戸
林家数	397戸
漁業経営体数	2,733経営体

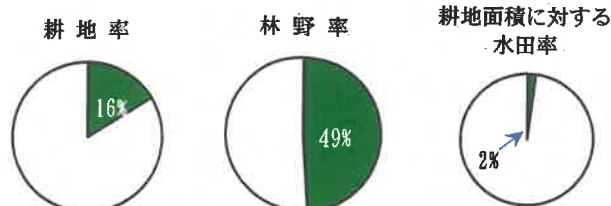
【総生産(平成29年度)】

県内総生産	4兆4,141億円
第1次産業 (農業・林業・水産業)	655億円
第2次産業 (鉱業・製造業・建設業)	7,451億円
第3次産業 (サービス業等)	3兆6,253億円

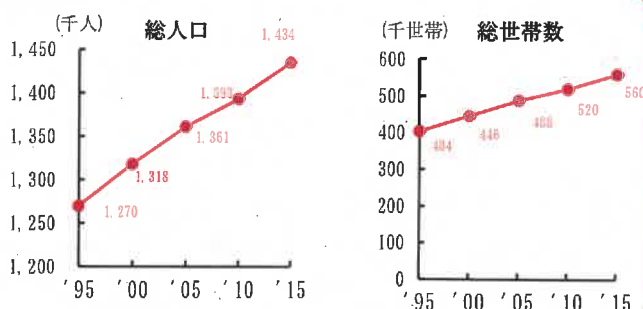
※輸入品に課される税等を算入していないため、計と内訳が一致しません。

1人当たり県民所得	235万円
1人当たり国民所得	319万円

■面積



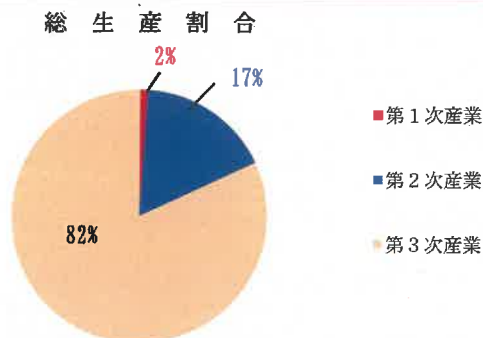
■総人口・総世帯数の動き



■就業者

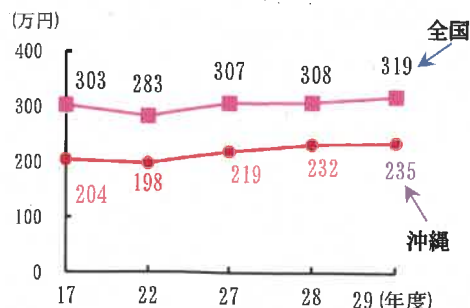


■総生産割合



注：単位未満の数値は四捨五入しています。

一人当たり所得



資料： 総土地面積は、国土地理院『令和2年全国都道府県市区町村別面積調』。林野面積、総農家数、林家数は、農林水産省大臣官房統計部『2015年農林業センサス』。耕地面積は、農林水産省大臣官房統計部『令和元年耕地面積調査』。人口、就業者数及び世帯数は、総務省統計局『平成27年国勢調査』。漁業経営体数は、農林水産省大臣官房統計部『2018年漁業センサス』。総生産は、内閣府経済社会総合研究所『平成29年度国民経済計算』、沖縄県『平成29年度県民経済計算(県民所得統計)』。

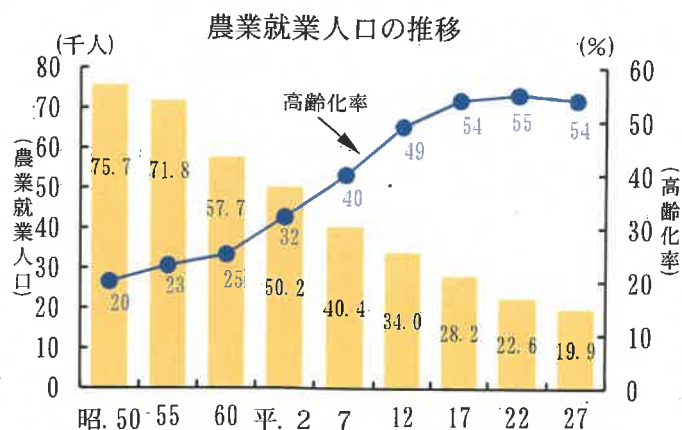
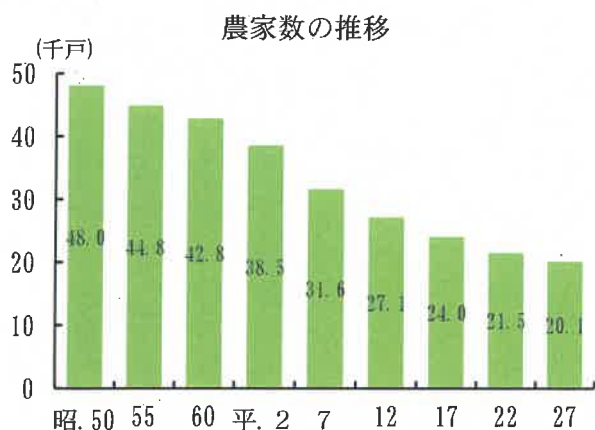
2 農家数、農業就業人口及び耕作放棄地面積

1 農家数及び農業就業人口 - 農家数及び農業就業人口はともに減少 -

農家数は減少傾向で推移しており、平成27年は2万56戸で昭和50年の4万8,018戸と比べて半数以下となっています。

農業生産を担う農業就業人口は年々減少を続け、平成27年は1万9,916人で昭和50年の7万5,715人と比べて3割以下の水準となっています。

農業就業人口に占める65歳以上の割合（高齢化率）は、平成22年55%、平成27年54%と半数以上を占めています。



【農家数及び農業就業人口の推移】

単位：戸、人

区 分	昭. 50	55	60	平. 2	7	12	17	22	27
総 農 家 数	48,018	44,823	42,820	38,512	31,588	27,088	24,014	21,547	20,056
農業就業人口	75,715	71,814	57,670	50,191	40,363	34,005	28,224	22,575	19,916
うち、65歳以上	15,420	16,466	14,267	15,941	15,974	16,572	15,253	12,329	10,761
高齢化率 (%)	20	23	25	32	40	49	54	55	54

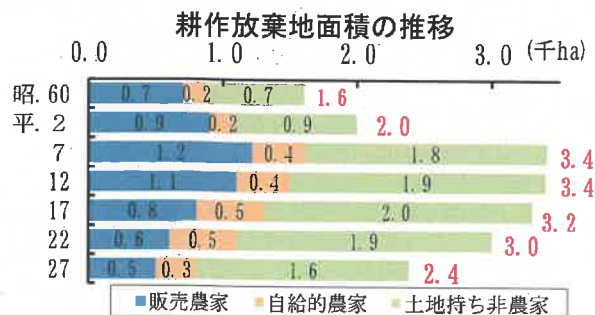
資料：農林水産省大臣官房統計部『農林業センサス』

2 耕作放棄地面積 - 平成12年から27年まで減少 -

耕作放棄地面積は平成7年まで増加していましたが、平成12年から27年までの耕作放棄地面積は減少しています。

平成27年の耕作放棄地面積は2,445haで、平成12年の3,411haに比べて966ha (28%) 減少しました。

これは、主に販売農家において耕作放棄地面積が減少したためです。



【農林業センサスからみた耕作放棄地面積の推移】

単位：ha

区 分	昭. 60	平. 2	7	12	17	22	27
計	1,555	1,977	3,424	3,411	3,240	2,994	2,445
販 売 農 家	696	872	1,248	1,080	780	634	513
自給的農家	176	237	381	443	494	455	343
土 地 持 ち 非 農 家	683	868	1,795	1,888	1,966	1,906	1,590

資料：農林水産省大臣官房統計部『農林業センサス』

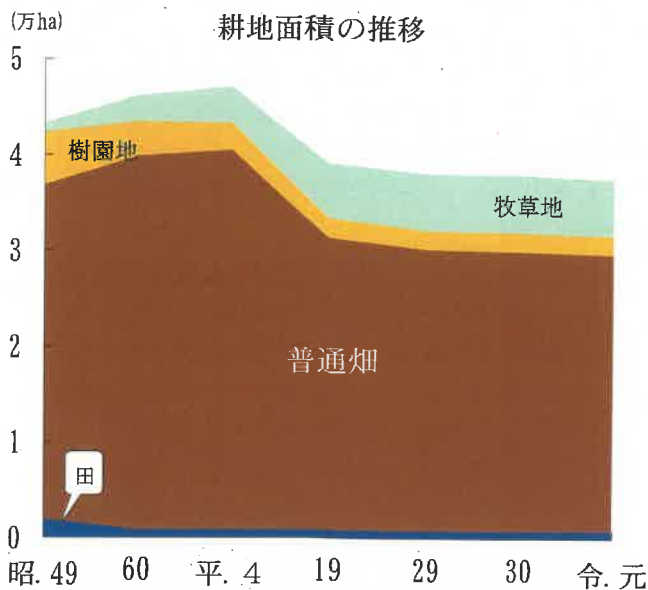
3 耕 地 面 積

－ 畑が98%を占める －

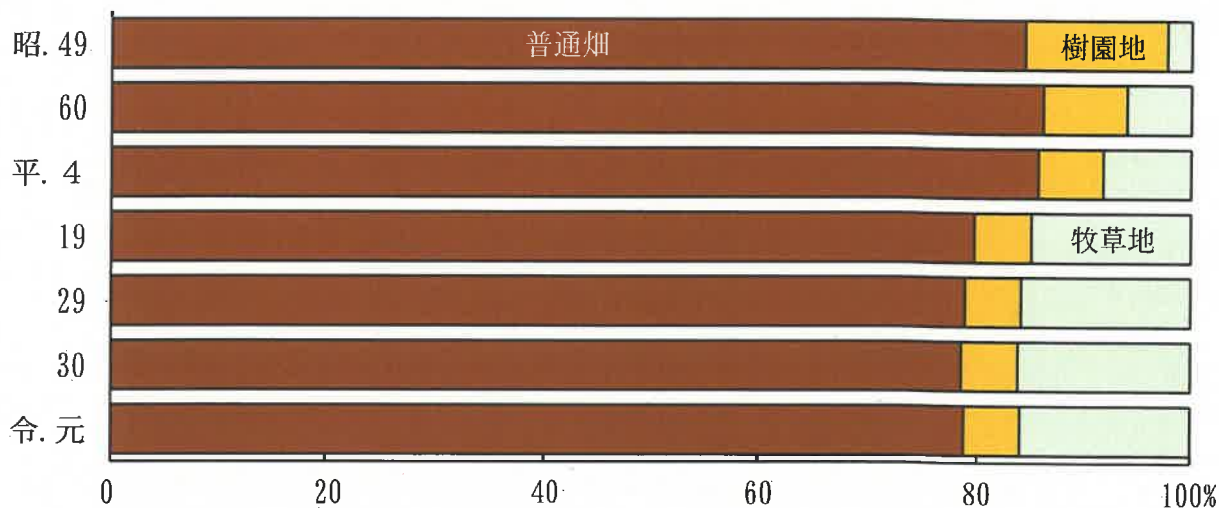
耕地面積は、現行調査を開始した昭和49年以降、平成4年の4万7,100haをピークに減少傾向で推移しており、令和元年は3万7,500haで、昭和49年の約86%となっています。このうち畑が3万6,700haで全体の98%を占め、田は2%です。（全国計では耕地面積に占める畑の割合は約46%です。）

畑を種類別にみると、普通畑が最も多く、樹園地は、パインアップルなどの減少により、令和元年は昭和49年の34%となっています。

牧草地は、肉用牛の増加に伴い、令和元年は昭和49年の約6倍の増加となっています。



畑種類別構成比の推移



【耕地面積の推移】

単位：ha

区 分	昭. 49	60	平. 4	19	29	30	令. 元
計	43,400	46,200	47,100	39,100	38,000	38,000	37,500
田	1,980	871	890	879	822	822	820
畑 計	41,400	45,300	46,200	38,200	37,200	37,200	36,700
普通畑	34,900	39,000	39,600	30,500	29,400	29,200	28,900
樹園地	5,520	3,580	2,810	2,020	1,930	1,940	1,890
牧草地	934	2,720	3,820	5,730	5,930	6,020	5,870

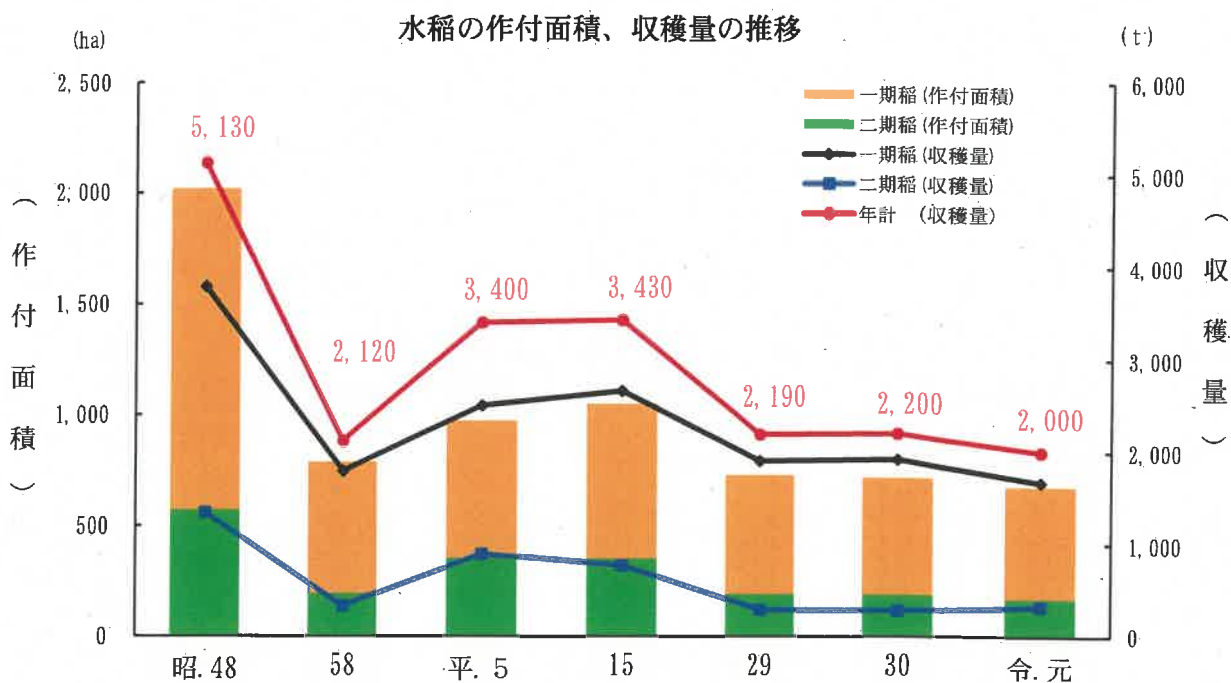
資料：農林水産省大臣官房統計部『耕地面積調査』

4 水稻の作付面積及び収穫量

－ 令和元年産 作付面積、収穫量とも減少 －

令和元年産の水稻作付面積（一期稲・二期稲計）は677haで、前年産に比べて39ha（5％）減少し、収穫量（一期稲・二期稲計）は2,000 tで、前年産に比べて200 t（9％）減少しました。

また、復帰後の昭和48年産に比べると作付面積は1,343ha（66％）、収穫量は3,130 t（61％）減少しています。これは、生産農家の高齢化による離農等があったためです。



【水稻の作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量の推移】

単位 { 作 付 面 積 : ha
10 a 当たり収量 : kg
収 穫 量 : t

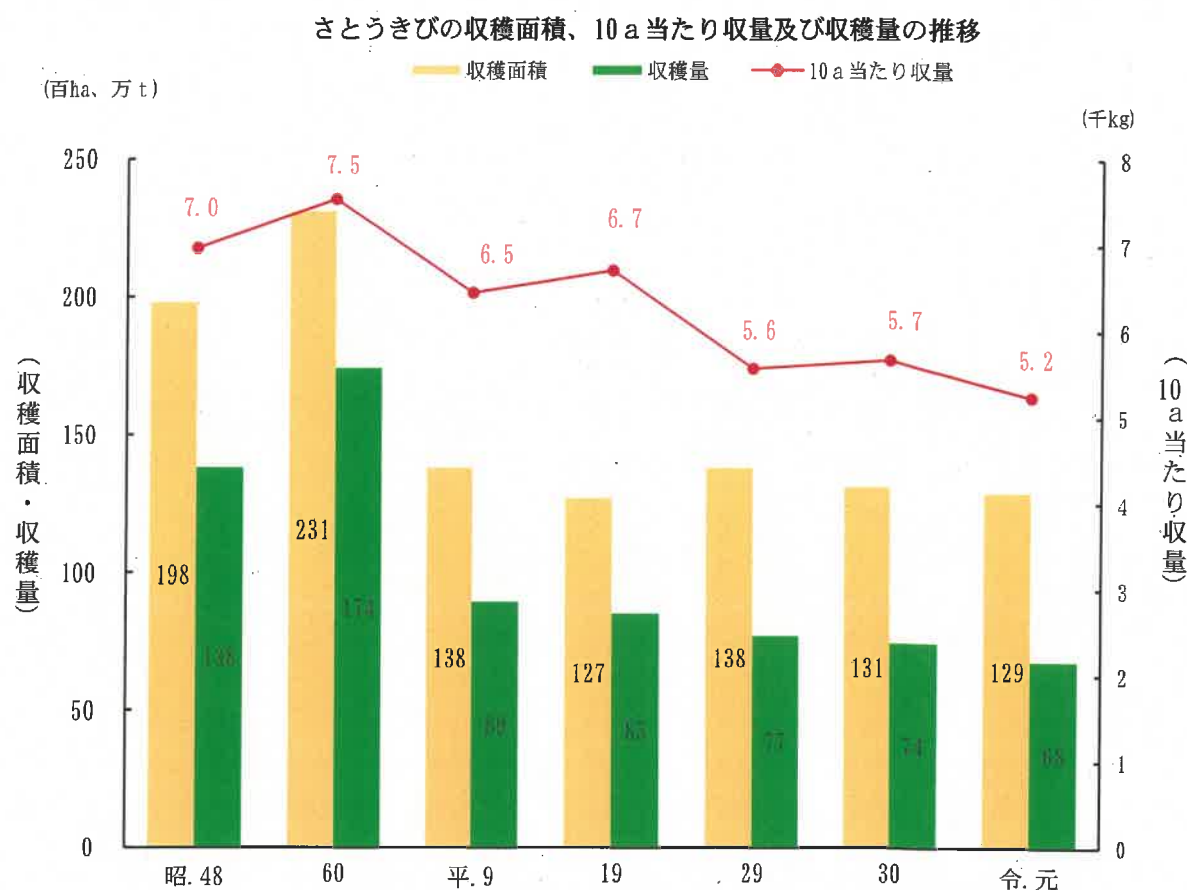
区分	作 付 面 積			10 a 当たり収量			収 穫 量		
	一期稲	二期稲		一期稲	二期稲		一期稲	二期稲	
昭. 48	2,020	1,450	571	254	262	234	5,130	3,790	1,340
58	786	593	193	270	302	171	2,120	1,790	330
平. 5	973	619	354	349	404	252	3,400	2,500	891
15	1,050	698	351	327	381	219	3,430	2,660	769
29	727	537	190	301	354	151	2,190	1,900	287
30	716	527	189	307	364	149	2,200	1,920	282
令. 元	677	506	171	295	331	188	2,000	1,670	321

資料：農林水産省大臣官房統計部『水稻調査』

5 さとうきびの収穫面積及び収穫量

－ 令和元年産の収穫量は前年産に比べて9%減少 －

さとうきびの収穫面積は、昭和60年産以降、減少傾向で推移しており、令和元年産の収穫面積は1万2,900haで昭和48年産の約65%となっています。なお、前年産に比べると200ha(2%)減少しました。これは、他作物への転換や栽培農家の高齢化による栽培中止があったためです。また、令和元年産の収穫量は67万6,000tで、前年産に比べて6万6,800t(9%)減少しました。



【さとうきびの収穫面積、10a当たり収量及び収穫量の推移】

区 分	昭. 48	60	平. 9	19	29	30	令. 元
収 穫 面 積	19,800	23,100	13,800	12,700	13,800	13,100	12,900
10a当たり収量	6,970	7,540	6,450	6,710	5,570	5,670	5,240
収 穫 量	1,380,000	1,741,000	892,600	850,000	768,900	742,800	676,000

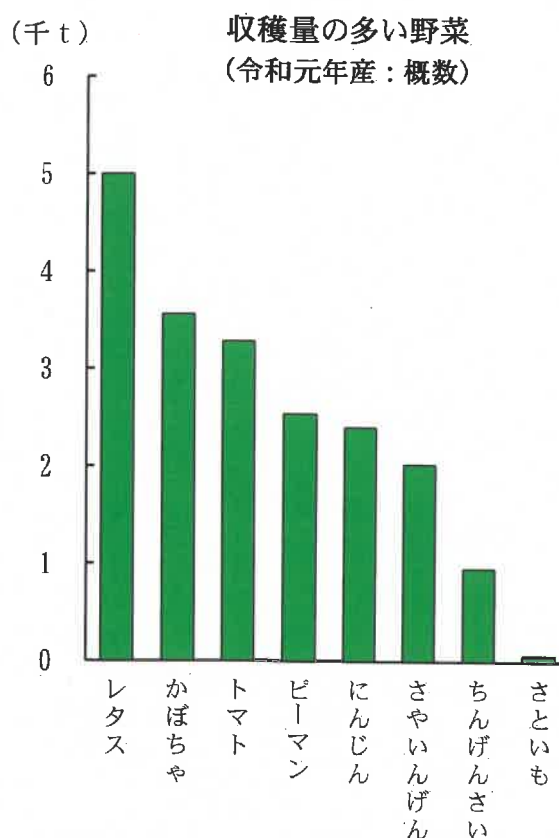
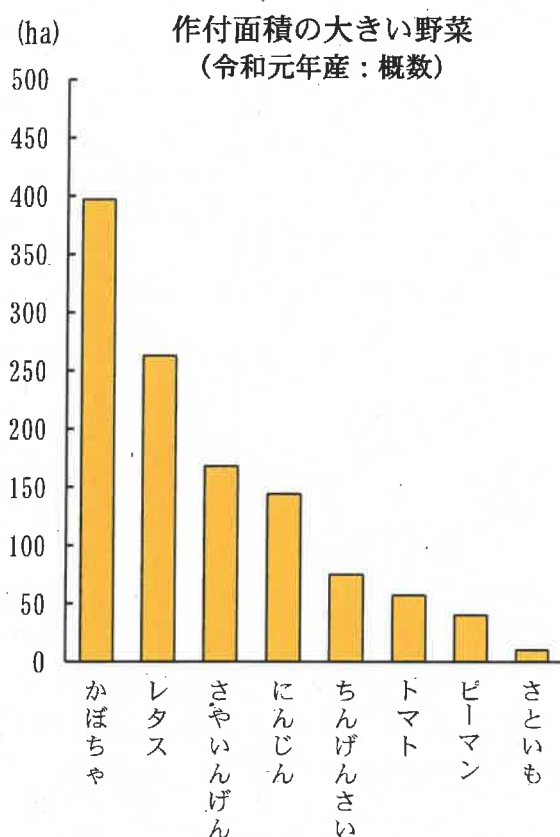
資料：農林水産省大臣官房統計部『甘味資源作物調査』

注：昭和48年産データは沖縄県農林水産部『さとうきび及び甘しゅ糖生産実績』

6 野菜の作付面積、収穫量及び出荷量

－ かぼちゃが作付面積で1位、レタスが収穫量で1位 －

令和元年産野菜調査の調査品目^(注)において、作付面積はかぼちゃが1位で397ha、次いでレタス263ha、さやいんげん168haの順となっています。収穫量はレタスが1位で5,000t、次いでかぼちゃ3,560t、トマト3,280tの順となっています。



【令和元年産調査野菜の作付面積、収穫量及び出荷量（概数）】

品 目	作付面積	収穫量	出荷量	品 目	作付面積	収穫量	出荷量
	ha	t	t		ha	t	t
に ん じ ん	144	2,400	2,030	ト マ ト	57	3,280	2,900
さ と い も	10	55	48	うち、ミニトマト	14	564	510
ちんげんさい	75	953	805	ピ ー マ ン	40	2,540	2,260
レ タ ス	263	5,000	4,260	うち、ししとう	1	10	8
うち、サラダ菜	6	76	66	さやいんげん	168	2,020	1,870
か ぼ ち ゃ	397	3,560	3,140				

資料：農林水産省大臣官房統計部『野菜生産出荷統計』

注：調査品目は、指定野菜及び指定野菜に準ずる野菜のうち、全国において沖縄県が主産県となっている品目であり、沖縄県内において作付けされている全ての品目を調査対象としたものではありません。

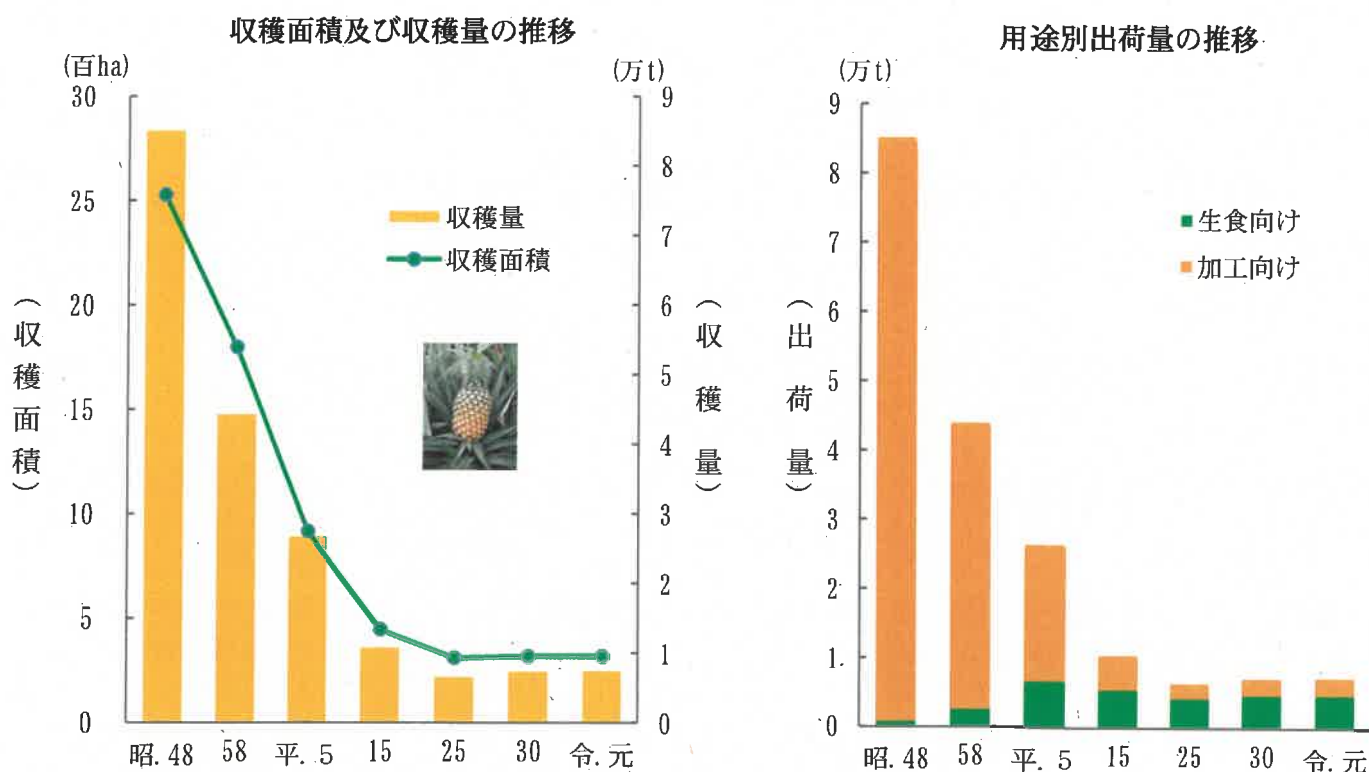
7 パインアップルの収穫面積、収穫量及び出荷量

－ 令和元年産の収穫面積、収穫量及び出荷量とも微増 －

パインアップルについては、復帰後は昭和48年産をピークに、安価な外国産パインアップルの輸入増加やパインアップル缶詰の輸入自由化の影響に伴う生産農家数の減少等により収穫面積及び収穫量とも減少傾向にありましたが、収穫面積は平成27年産から増加に転じています。

令和元年産の収穫面積は320haで、前年産に比べ1 ha (0.3%) 増加、収穫量は7,460 tで、前年産に比べ120 t (2%) 増加しました。

出荷量は7,280 tで、前年産に比べ120 t (2%) 増加しました。これを用途別にみると、生食向けは4,770 t、加工向けは2,510 tとなっています。



【パインアップルの収穫面積、収穫量及び出荷量の推移】

単位 { 収穫面積 : ha
収穫量・出荷量 : t

区 分	昭. 48年産	58	平. 5	15	25	30	令. 元
収 穫 面 積	2,530	1,800	917	448	311	319	320
収 穫 量	85,100	44,300	26,700	10,800	6,590	7,340	7,460
出 荷 量	85,100	43,900	26,500	10,500	6,410	7,160	7,280
うち生食向け	835	2,600	6,730	5,500	4,310	4,780	4,770
うち加工向け	84,300	41,300	19,700	4,960	2,100	2,380	2,510

資料：農林水産省大臣官房統計部『果樹生産出荷統計』

注：昭和48年産の収穫面積は、便宜上、12月現在における植え付け後2年以上の栽培面積を計上しています。

8 花き(切り花類)の作付面積及び出荷量

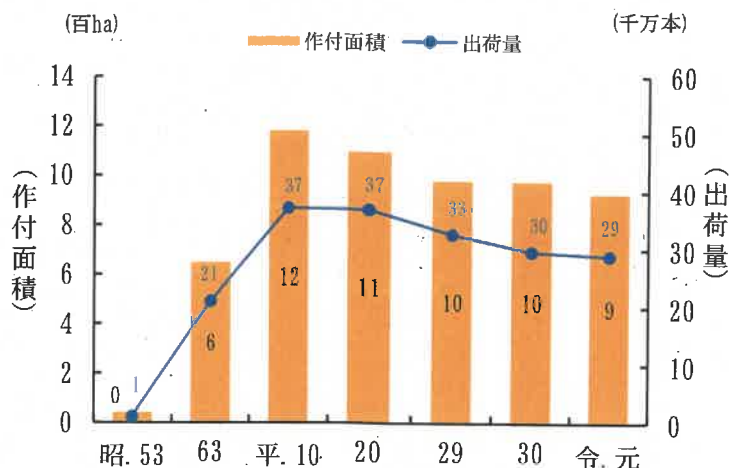
－ 令和元年産花き(切り花類)の出荷量は前年産より2%減少 －

切り花類の作付面積は、昭和53年産以降、増加傾向で推移しましたが、近年は減少傾向で推移し、令和元年産は925haで、前年産に比べ51ha(5%)減少しました。

主な品目別に作付面積割合をみると、きくが80%、洋ラン類が2%、その他切り花が18%となっています。

また、令和元年産の出荷量は2億8,950万本で、前年産に比べ720万本(2%)減少しました。

切り花類の作付面積及び出荷量の推移



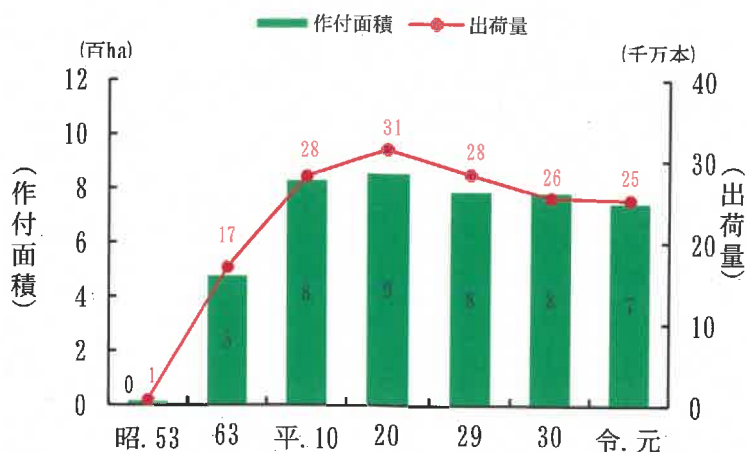
① きく

きくの作付面積の推移をみると、近年は減少傾向で推移しており、令和元年産の作付面積は745haで前年産に比べ39ha(5%)、出荷量は2億5,260万本で、前年産に比べ300万本(1%)それぞれ減少しました。

② 洋ラン類

洋ラン類の令和元年産の作付面積は15haで、前年産に比べ100a(6%)、出荷量は150万本で、前年産に比べ22万本(13%)それぞれ減少しました。

きくの作付面積及び出荷量の推移



【花き(切り花類)の作付面積及び出荷量の推移】

区 分	切り花類計		き く		洋ラン類		その他の切り花	
	作付面積 (a)	出荷量 (千本)	作付面積 (a)	出荷量 (千本)	作付面積 (a)	出荷量 (千本)	作付面積 (a)	出荷量 (千本)
昭. 53	4,200	10,942	1,500	6,060	-	-	2,700	4,882
63	64,800	211,000	47,600	169,300	2,800	4,230	14,400	37,470
平. 10	118,000	372,100	82,800	281,400	4,900	6,600	30,300	84,100
20	109,400	369,500	85,400	314,500	2,640	2,730	21,360	52,270
29	97,800	326,700	78,600	283,700	1,510	1,490	17,690	41,510
30	97,600	296,700	78,400	255,600	1,580	1,720	17,620	39,380
令. 元	92,500	289,500	74,500	252,600	1,480	1,500	16,520	35,400

資料：農林水産省大臣官房統計部『花き調査』

9 家畜の飼養戸数及び飼養頭羽数

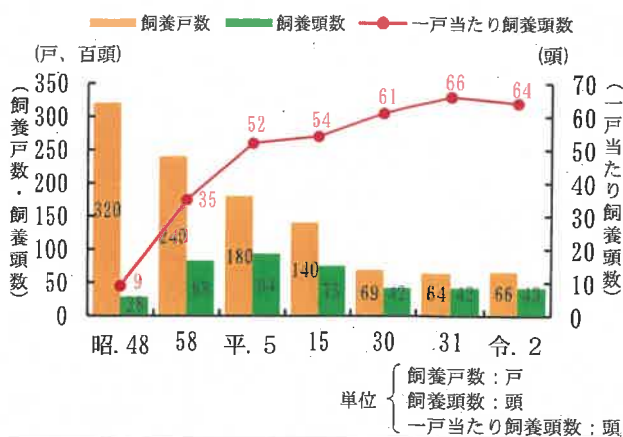
1 乳用牛 - 大規模化が進む -

乳用牛の令和2年の飼養戸数は66戸で、前年に比べ2戸(3%)増加しています。昭和48年と比べると254戸の減少となっています。

また、令和2年の飼養頭数は4,250頭で、前年に比べ20頭増加し、昭和48年と比べると約1.5倍に増加しています。

一戸当たりの飼養頭数は64頭で、昭和48年の約7倍に増加しており、大規模化が進んでいます。

乳用牛の飼養戸数及び飼養頭数の推移



【乳用牛の飼養戸数及び飼養頭数の推移】

区 分	昭. 48	58	平. 5	15	30	31	令. 2
飼 養 戸 数	320	240	180	140	69	64	66
飼 養 頭 数	2,840	8,280	9,350	7,530	4,190	4,230	4,250
一戸当たり飼養頭数	9	35	52	54	61	66	64

資料：農林水産省大臣官房統計部『畜産統計調査』

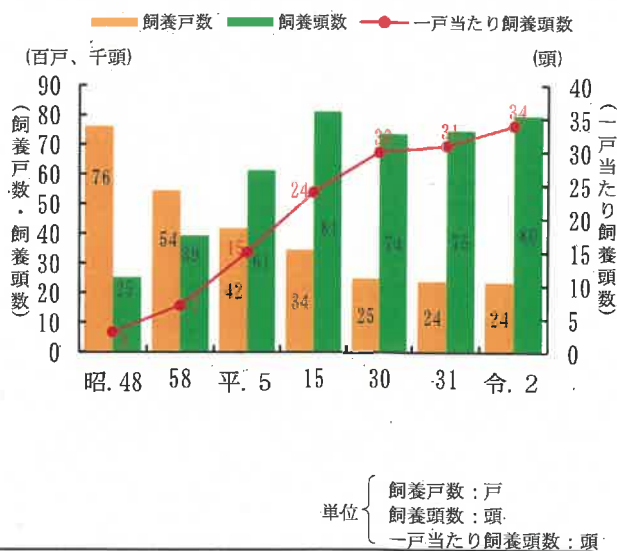
2 肉用牛 - 大規模化が進む -

肉用牛の令和2年の飼養戸数は2,350戸で、前年に比べ30戸(1%)減少しています。昭和48年と比べると農家の高齢化による離農等のため大幅に減少しています。

また、令和2年の飼養頭数は7万9,700頭で前年に比べ5,000頭(7%)増加しました。昭和48年と比べると約3倍に増加していますが、これは、優良繁殖雌牛導入にかかる補助事業等によるものです。

一戸当たりの飼養頭数は34頭で、昭和48年の約11倍に増加しており、大規模化が進んでいます。

肉用牛の飼養戸数及び飼養頭数の推移



【肉用牛の飼養戸数及び飼養頭数の推移】

区 分	昭. 48	58	平. 5	15	30	31	令. 2
飼 養 戸 数	7,620	5,440	4,170	3,440	2,470	2,380	2,350
飼 養 頭 数	25,200	39,200	61,200	81,000	73,600	74,700	79,700
肉用種	...	38,300	59,800	80,300	72,950	74,170	79,100
子取り用めす牛	...	...	...	...	43,000	43,700	44,100
肥育用牛	...	...	14,500	5,670	6,850	7,370	6,800
育成牛	...	...	...	...	23,100	23,100	28,200
※乳用種	150	890	1,370	660	650	510	590
一戸当たり飼養頭数	3	7	15	24	30	31	34

資料：農林水産省大臣官房統計部『畜産統計調査』

※ホルスタイン種等の乳用種のうち、肉用を目的として飼育している牛をいう。

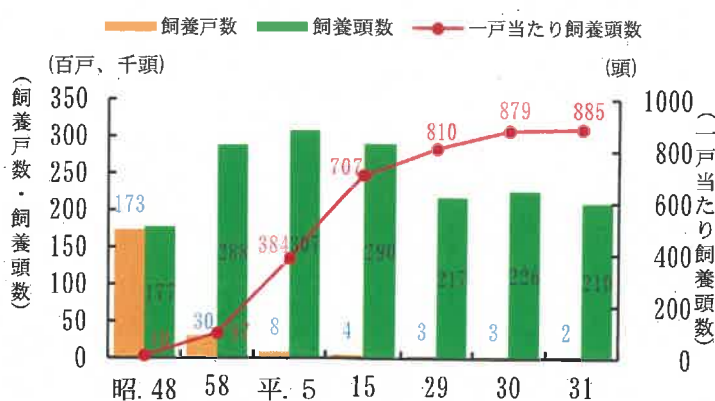
3 豚 - 飼養戸数が減少、大規模化が進む -

豚の平成31年の飼養戸数は237戸で、前年に比べ20戸（8％）減少しており、昭和48年と比べると大幅な減少となっています。

また、平成31年の飼養頭数は20万9,800頭で、前年に比べ16,000頭（7％）減少しましたが、昭和48年と比べると3万2,800頭（19％）増加しています。

一戸当たり飼養頭数は885頭で、昭和48年の89倍に増加しており、大規模化が進んでいます。

豚の飼養戸数及び飼養頭数の推移



【豚の飼養戸数及び飼養頭数の推移】

区 分	昭. 48	58	平. 5	15	29	30	31
飼 養 戸 数	17,300	2,970	800	410	268	257	237
飼 養 頭 数	177,000	287,900	307,000	289,700	217,200	225,800	209,800
一戸当たり飼養頭数	10	97	384	707	810	879	885

資料：農林水産省大臣官房統計部『畜産統計調査』

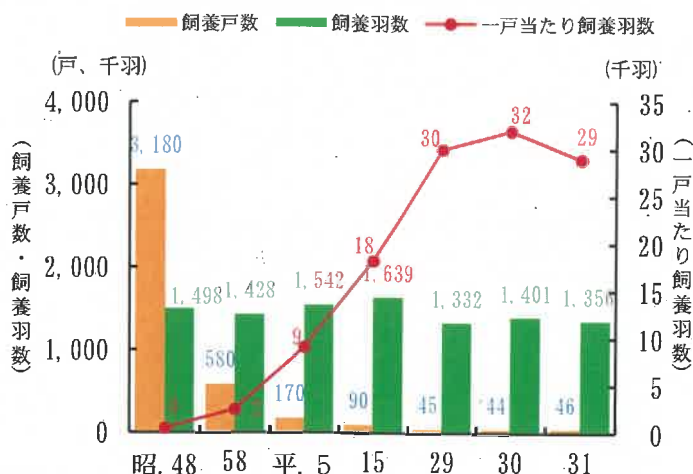
4 採卵鶏 - 飼養戸数が減少、大規模化が進む -

採卵鶏の平成31年の飼養戸数（種鶏のみの飼養者及び成鶏めす1,000羽未満の飼養者は除く。）は46戸で、前年に比べ2戸（5％）増加しているが、昭和48年と比べると大幅に減少しています。

また、平成31年の飼養羽数（種鶏を除く。）は135万6,000羽で、前年に比べ4万5,000羽（3％）減少しており、昭和48年と比べると14万2,000羽（9％）減少しています。

一戸当たり飼養羽数は2万9,000羽で、昭和48年に比べると増加しており大規模化が進んでいます。

採卵鶏の飼養戸数及び飼養羽数の推移



【採卵鶏の飼養戸数及び飼養羽数の推移】

区 分	昭. 48	58	平. 5	15	29	30	31
飼 養 戸 数	3,180	580	170	90	45	44	46
飼 養 羽 数	1,498	1,428	1,542	1,639	1,332	1,401	1,356
一戸当たり飼養羽数	4	2	9	18	30	32	29

資料：農林水産省大臣官房統計部『畜産統計調査』

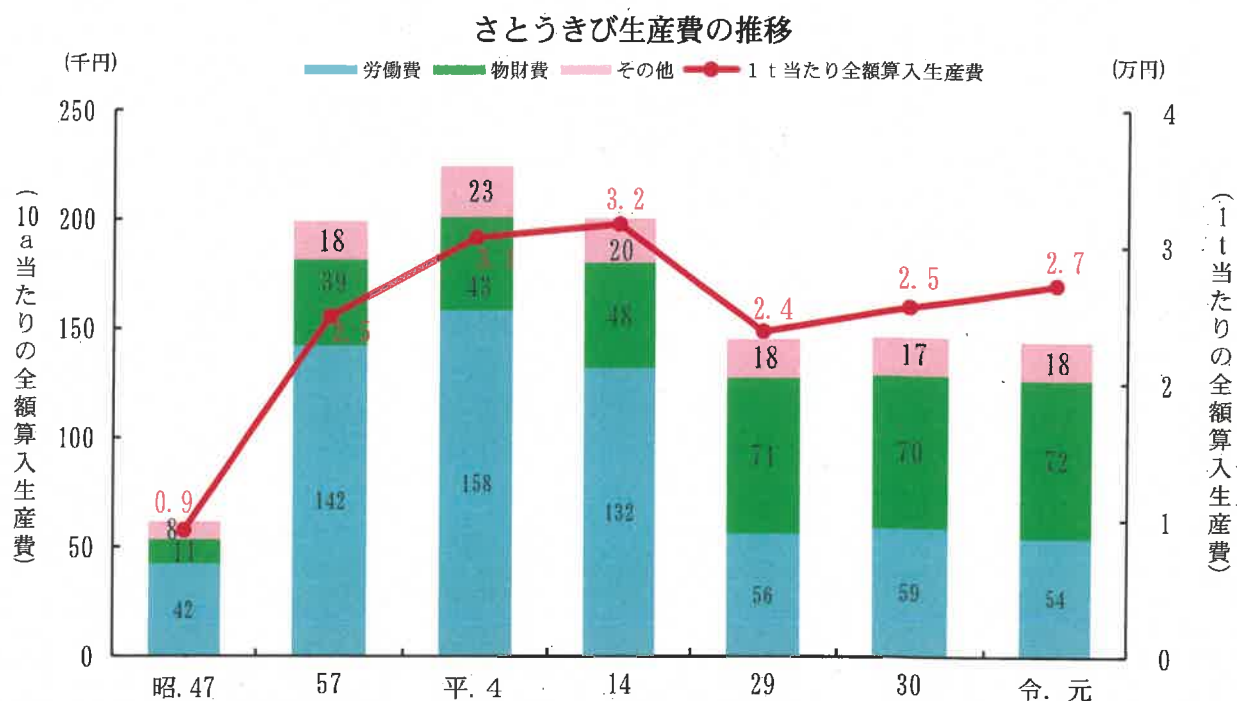
注：平成5年は成鶏めす羽数300羽未満の飼養者を除く、平成15年以降は1,000羽未満を除く、昭和58年以前は全数調査。

10 さとうきび生産費

－ 令和元年産は前年産に比べ減少(10a当たり) －

令和元年産さとうきびの10 a 当たり生産費(全額算入生産費)は14万3,992円で、前年産に比べ2,091円(1.4%)減少となっており、労働費は減少、物財費は増加しています。

1 t 当たりでみると、生産費(全額算入生産費)は2万7,172円で、前年産に比べ1,526円(6.0%)増加しています。



【さとうきび生産費の推移】

単位 { 金額: 円
収量: kg

区 分		昭. 47	57	平. 4	14	29	30	令. 元
10 a 当たり	資本利子・地代全額算入生産費	61,378	198,979	224,244	200,327	145,115	146,083	143,992
	支払利子・地代算入生産費	53,377	181,458	202,973	183,644	132,810	135,725	132,619
	生産費(副産物価額差引)	53,377	181,458	201,005	180,165	127,594	128,697	126,440
	労働費	42,334	142,102	158,184	131,917	56,206	58,667	54,071
	物財費	11,043	39,356	42,821	48,248	71,388	70,030	72,369
	収 量	6,661	7,994	7,312	6,329	6,096	5,696	5,299
1 t 当たり	資本利子・地代全額算入生産費	9,216	24,893	30,667	31,653	23,802	25,646	27,172
	支払利子・地代算入生産費	8,015	22,701	27,758	29,017	21,784	23,828	25,026
	生産費(副産物価額差引)	8,015	22,701	27,488	28,467	20,928	22,594	23,860
	労働費	6,356	17,777	21,633	20,844	9,218	10,301	10,205
	物財費	1,659	4,924	5,855	7,623	11,710	12,293	13,655

資料：農林水産省大臣官房統計部『農業経営統計調査 さとうきび生産費統計』

11 農 業 産 出 額

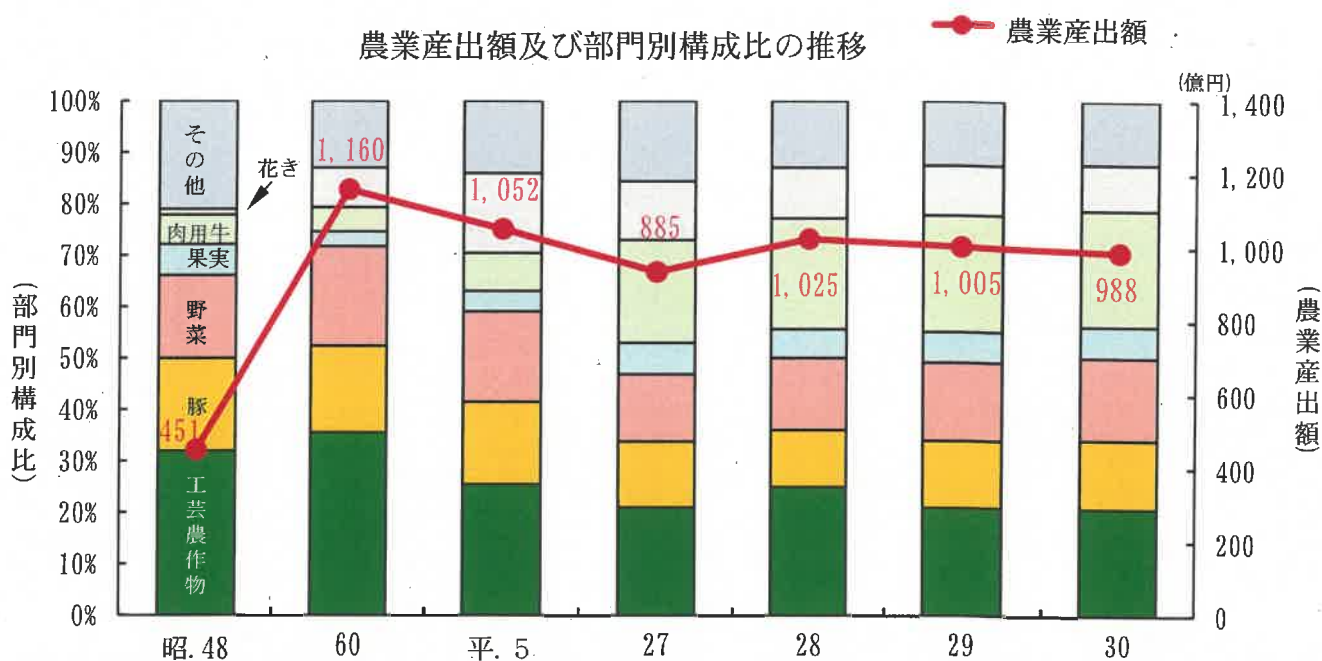
1

－農業産出額は988億円で、3年ぶりに1,000億円を下回りました

平成30年農業産出額は988億円で、前年に比べ17億円（1.7%）減少しました。これは、さとうきびが7億円（4.2%）、花きが9億円（9.3%）、肉用牛が5億円（2.2%）減少したためです。

また、農業産出額を部門別にみると、耕種部門は539億円で、前年に比べ8億円（1.5%）減少しました。畜産部門は449億円で、前年に比べて8億円（1.8%）の減少となりました。

平成30年の農業産出額に占める部門別構成割合は、肉用牛が23%と最も高く、次に工芸農作物が21%（内さとうきびが16%）、野菜が16%と続いています。



【農業産出額及び構成比の推移】

単位：億円、（ ）は%

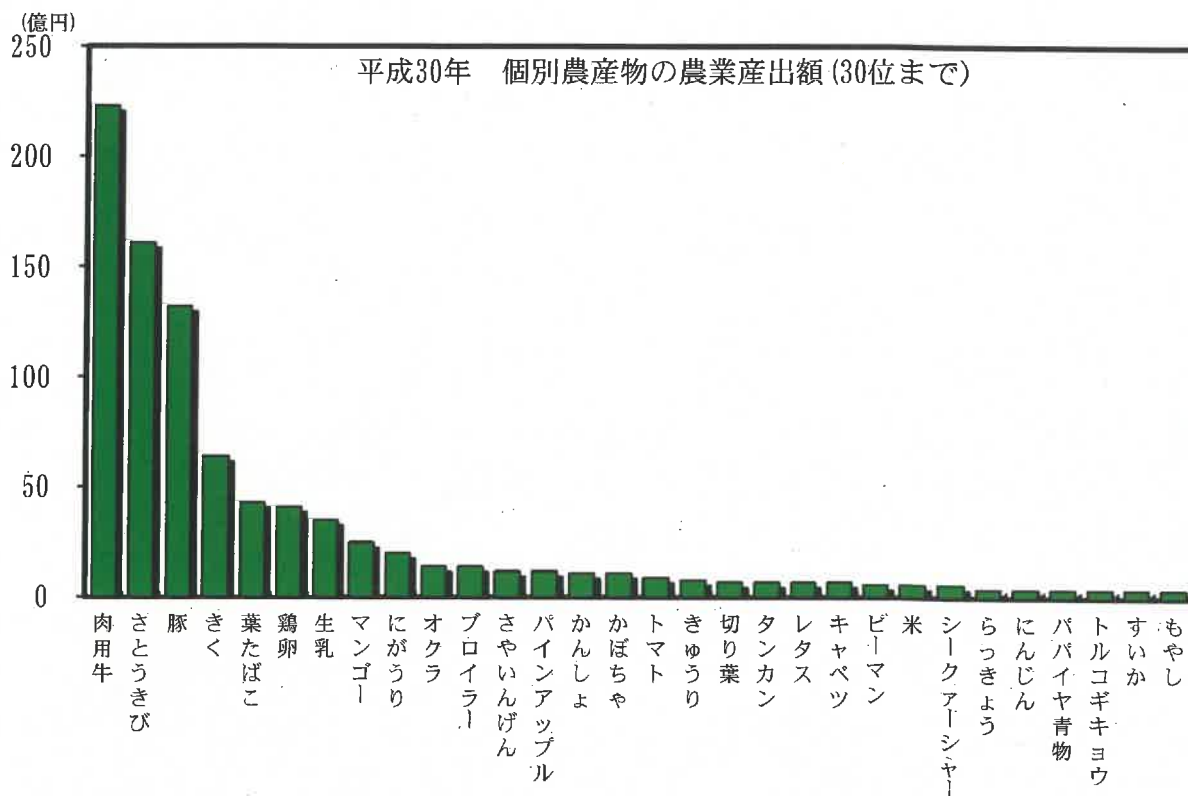
区 分	昭. 48	60	平. 5	27	28	29	30
農 業 産 出 額	451 (100)	1,160 (100)	1,052 (100)	935 (100)	1,025 (100)	1,005 (100)	988 (100)
耕 種 部 門	280 (62)	795 (69)	699 (66)	508 (54)	584 (57)	547 (54)	539 (55)
野 菜	73 (16)	225 (19)	185 (18)	122 (13)	144 (14)	153 (15)	158 (16)
果 実	27 (6)	33 (3)	42 (4)	57 (6)	57 (6)	60 (6)	60 (6)
花 き	5 (1)	89 (8)	163 (15)	107 (11)	101 (10)	97 (10)	88 (9)
工芸農作物	144 (32)	412 (36)	268 (25)	196 (21)	256 (25)	210 (21)	205 (21)
うちさとうきび	138 (31)	374 (32)	221 (21)	162 (17)	217 (21)	168 (17)	161 (16)
畜 産 部 門	171 (38)	362 (31)	352 (33)	426 (46)	440 (43)	457 (46)	449 (45)
肉 用 牛	26 (6)	50 (4)	78 (7)	187 (20)	221 (22)	228 (23)	223 (23)
豚	81 (18)	195 (17)	168 (16)	120 (13)	113 (11)	131 (13)	132 (13)

資料：農林水産省大臣官房統計部『生産農業所得統計』

2 個別農産物の農業産出額 ―上位10品目で約8割を占める―

平成30年の農業産出額を個別農産物別にみると、肉用牛が223億円、次いでさとうきび161億円、豚132億円、きく64億円、葉たばこ43億円の順となっています。肉用牛からオクラまでの上位10品目で農業産出額全体の約8割を占めています。

なお、昭和48年の個別農産物の農業産出額は、さとうきびが138億円、次いで豚81億円、鶏卵35億円、肉用牛26億円、パインアップル26億円の順でした。



【平成30年個別農産物の順位と農業産出額】

単位：億円

順位	農産物	産出額	順位	農産物	産出額	順位	農産物	産出額
1 (4)	肉用牛	223	11 (6)	プロイラー	14	21 (7)	キャベツ	7
2 (1)	さとうきび	161	12 (25)	さやいんげん	12	22 (49)	ピーマン	6
3 (2)	豚	132	13 (5)	パインアップル	12	23 (9)	米	6
4 (31)	きく	64	14 (14)	かんしょ	11	24 (…)	シークアーシャー	6
5 (13)	葉たばこ	43	15 (28)	かぼちゃ	11	25 (…)	らっきょう	4
6 (3)	鶏卵	41	16 (26)	トマト	9	26 (10)	にんじん	4
7 (16)	生乳	35	17 (12)	きゅうり	8	27 (…)	パパイヤ青物	4
8 (…)	マンゴー	25	18 (…)	切り葉	7	28 (…)	トルコギキョウ	4
9 (11)	にがうり	20	19 (…)	タンカン	7	29 (22)	すいか	4
10 (…)	オクラ	14	20 (24)	レタス	7	30 (…)	もやし	4

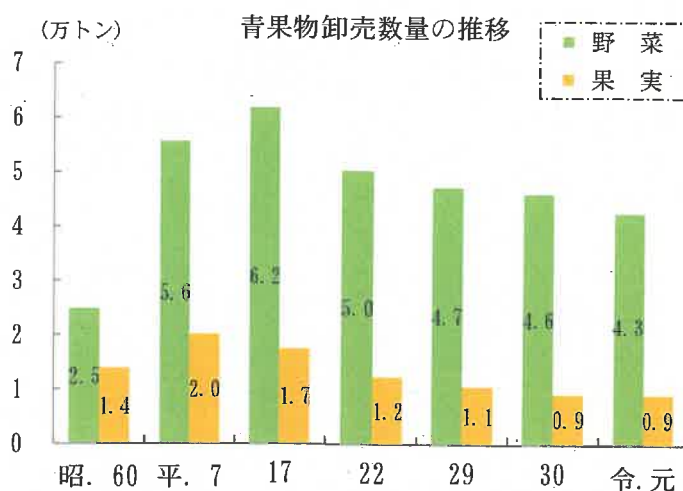
資料：農林水産省大臣官房統計部『生産農業所得統計』

注：() 書きは昭和48年の順位です。

12 青果物の卸売数量及び卸売価格

1 卸売数量 — 野菜、果実ともに前年に比べ減少 —

沖縄県中央卸売市場における令和元年の野菜の卸売数量は4万2,649 tで、前年に比べ3,408 t (7 %) 減少、果実の卸売数量は9,190 tで前年に比べ76 t (1 %) 減少しました。これは、野菜については、にんじん、キャベツ等の入荷量が減少したこと、また、果実については、パインアップル、すいか等の入荷量が減少したことによるものです。



【卸売数量の推移】

単位: t

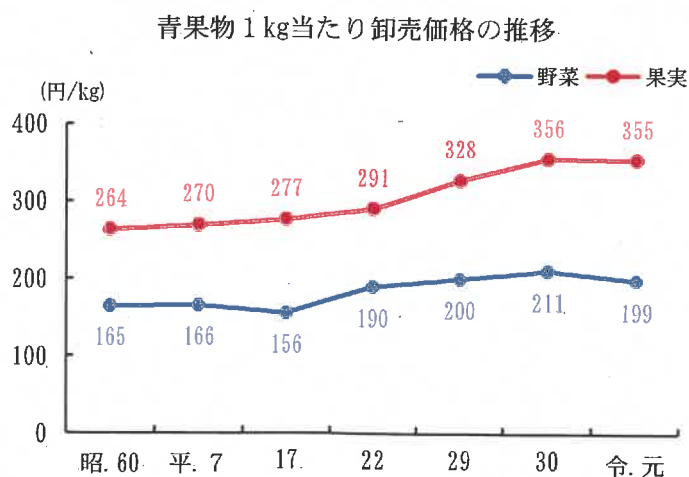
区 分	昭. 60	平. 7	17	22	29	30	令. 元
野 菜	24,850	55,656	61,787	50,267	47,233	46,057	42,649
果 実	13,891	20,191	17,485	12,364	10,607	9,266	9,190

資料: 農林水産省大臣官房統計部『青果物卸売市場調査』、注: 令. 元年は概数値

2 卸売価格 — 野菜、果実ともに前年に比べ低下 —

令和元年の野菜の1 kg当たり卸売価格は199円で、前年に比べ12円 (6 %) 低下し、昭和60年の165円に比べると34円 (21%) 上昇しました。

また、令和元年の果実の1 kg当たり卸売価格は355円で前年に比べ1円 (0.3 %) 低下し、昭和60年の264円と比べると91円 (34%) 上昇しました。



【卸売価格の推移】

単位: 円/kg当たり

区 分	昭. 60	平. 7	17	22	29	30	令. 元
野 菜	165	166	156	190	200	211	199
果 実	264	270	277	291	328	356	355

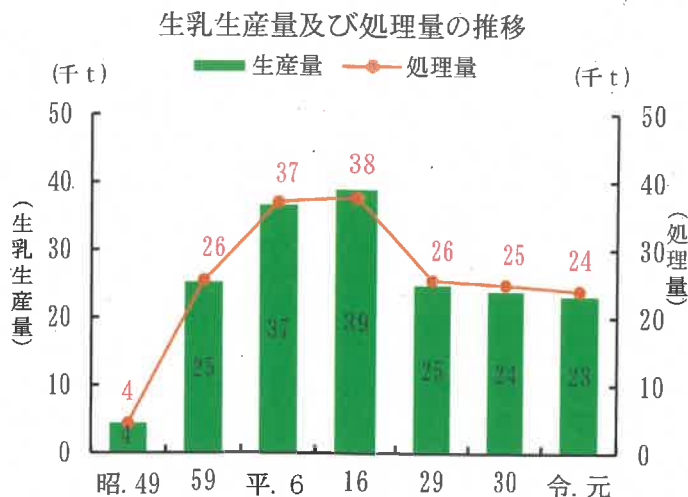
資料: 農林水産省大臣官房統計部『青果物卸売市場調査』

13 生乳及び飲用牛乳等の生産量

1 生乳の生産量及び処理量 — 近年は同水準で推移 —

令和元年の沖縄県の生乳生産量は2万3,180tで、昭和49年に比べ1万8,824t(432%)増加しました。これは、乳用牛の飼養頭数が増加したこと等によるものです。

沖縄県の生乳処理量は2万3,961tで、昭和49年に比べ1万9,605t(450%)増加しました。これを用途別にみると、牛乳等向けは2万3,916tで、処理量のほとんどを占めており、昭和49年に比べ2万60t(520%)増加しました。



【生乳の生産量及び処理量の推移】

単位：t

区 分	昭. 49	59	平. 6	16	29	30	令. 元
生乳生産量	4,356	25,219	36,585	38,899	24,758	23,846	23,180
用途別処理量	4,356	25,520	37,050	37,708	25,508	24,849	23,961
牛乳等向	3,856	25,049	34,947	36,065	25,440	24,798	23,916
乳製品向	500	403	2,029	15,251	—	—	—
その他	—	68	74	118	68	51	45

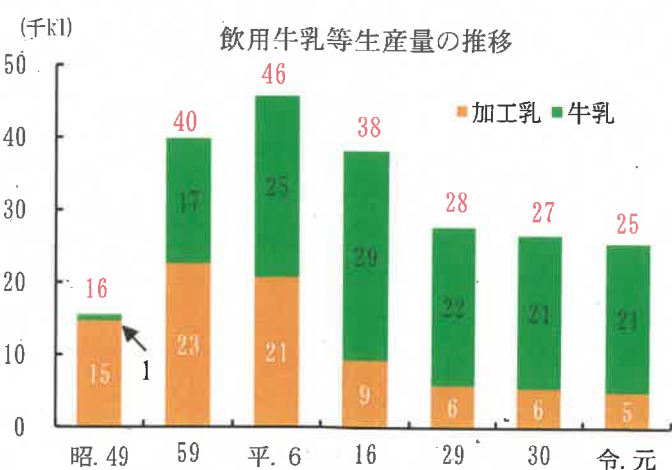
資料：農林水産省大臣官房統計部『牛乳乳製品統計調査』、注：用途別処理量は、県外からの移入量も含む。

2 飲用牛乳等生産量 — 近年は牛乳の割合が高く推移 —

令和元年の沖縄県の飲用牛乳等の生産量は2万5,425klで、昭和49年に比べ1万9,901kl(64%)増加しました。

種類別にみると牛乳は2万460klで、昭和49年と比べ1万9,630kl(2,365%)増加し、加工乳は4,965klで、昭和49年に比べ9,729kl(66%)減少しました。

また、牛乳と加工乳の割合をみると昭和49年は、牛乳が5%、加工乳が95%と加工乳の割合が高かったのですが、令和元年では、牛乳が80%、加工乳が20%と牛乳の割合が高くなっています。



【飲用牛乳等生産量の推移】

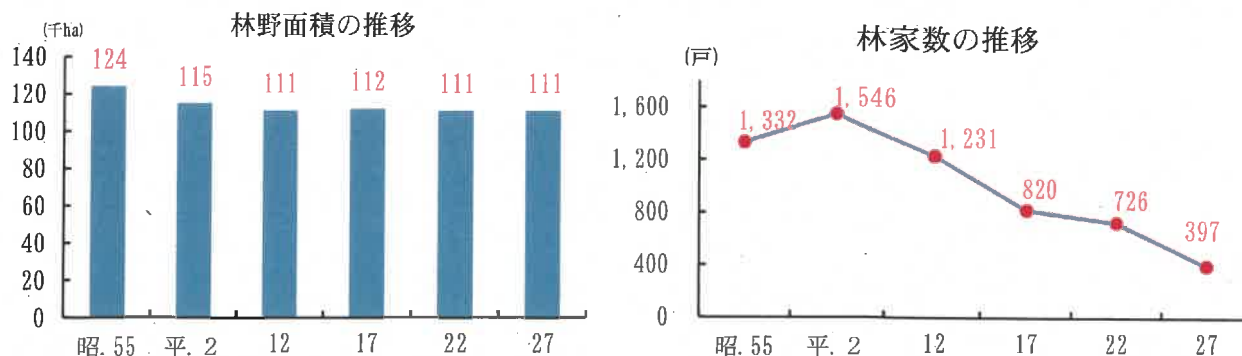
単位：kl

区 分	昭. 49	59	平. 6	16	29	30	令. 元
飲用牛乳等計	15,524	39,838	45,670	38,205	27,717	26,620	25,425
牛 乳	830	17,203	24,971	28,889	21,791	21,081	20,460
加 工 乳	14,694	22,635	20,699	9,316	5,926	5,539	4,965

資料：農林水産省大臣官房統計部『牛乳乳製品統計調査』

14 林野面積・林家数及び林業産出額

1 林野面積及び林家数 — 林野面積及び林家数はともに減少 —



平成27年の林野面積は11万1千haで、昭和55年に比べ13千ha(10%)減少しました。また、平成27年の林家数は397戸で、平成2年のピーク時に比べ1,149戸(74%)減少しました。これは、5ha未満の林家が減少したためです。

【林野面積及び林家数の推移】

単位：千ha、戸

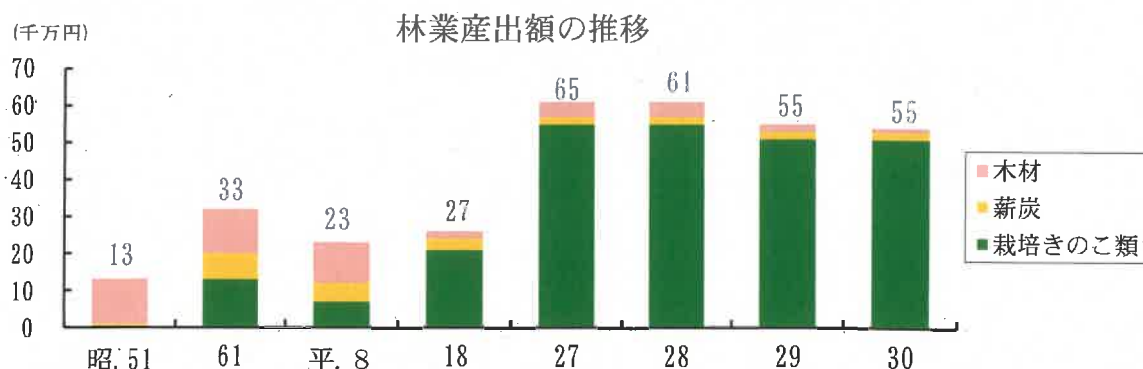
区 分	昭. 55	平. 2	12	17	22	27
林野面積	124	115	111	112	111	111
林 家 数	1,332	1,546	1,231	820	726	397

資料：農林水産省大臣官房統計部『農林業センサス』

注：林家とは、調査期日現在の保有山林面積が1ha以上ある世帯をいいます。

2 林業産出額 — 昨年より132万円減少 —

平成30年の林業産出額は5億4,754万円で、前年に比べ132万円(0.2%)減少しました。これは、林業産出額のおよそ9割を占める栽培きのご類や薪炭が減少したためです。昭和51年の林業産出額と比べると約4倍の増加となっています。



【林業産出額の推移】

単位：千万円

区 分	昭. 51	61	平. 8	18	27	28	29	30
林 業 産 出 額	13	33	23	27	61	61	55	55
木 材	12	12	11	2	4	4	2	2
薪 炭	1	7	5	3	2	2	2	1
栽培きのご類	0	13	7	21	55	55	51	51

資料：農林水産省大臣官房統計部『林業産出額』

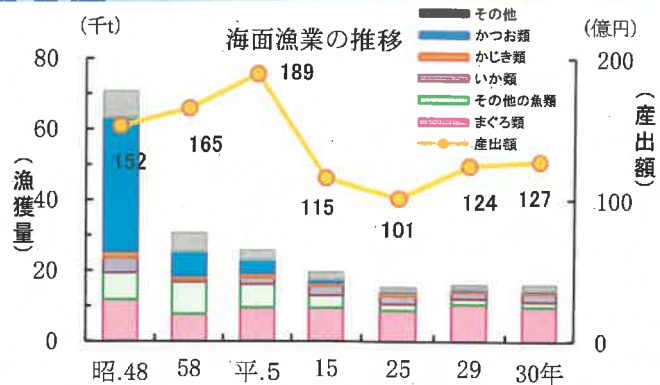
15 海面漁業生産量及び海面漁業産出額

1 海面漁業 -まぐろ類の漁獲量が第1位-

平成30年の結果を昭和48年と比べると漁獲量で約2割、産出額で約8割の水準となっています。

昭和48年の漁獲量はかつお類が5割を占めていました。これは、主に南方基地漁業による近海かつお一本釣によるものです。

近年は、まぐろ類の割合が高くなり、平成30年は約6割となっています。



【主要魚種別漁獲量及び産出額の推移】

単位：t、百万円

年次	漁獲量	まぐろ類	かじき類	かつお類	その他の魚類	いか類	産出額
昭.48	70,678	11,712	1,698	38,048	7,635	4,229	15,234
58	30,536	7,626	1,152	6,991	9,060	576	16,480
平.5	25,681	9,518	1,290	3,874	6,578	1,755	18,885
15	19,414	9,352	892	1,150	3,591	2,676	11,542
25	15,294	8,746	1,092	473	1,850	2,207	10,093
29	15,954	10,455	705	417	1,668	1,821	12,371
30	15,555	9,758	732	359	1,557	2,308	12,746

資料：農林水産省大臣官房統計部『海面漁業生産統計調査』、『漁業産出額』

2 海面養殖業 -日本一のもずくの産地-

平成30年の結果を昭和48年と比べると収穫量で2,144倍、産出額で267倍と大幅に増加しています。

これは、海面養殖業の9割を占めるもずく類において、昭和54年頃に養殖技術（ヒビ建て式養殖）が普及したことによりもずく養殖が盛んになり、全国シェアの99%を占める「日本一のもずく産地」となったことが主な要因です。

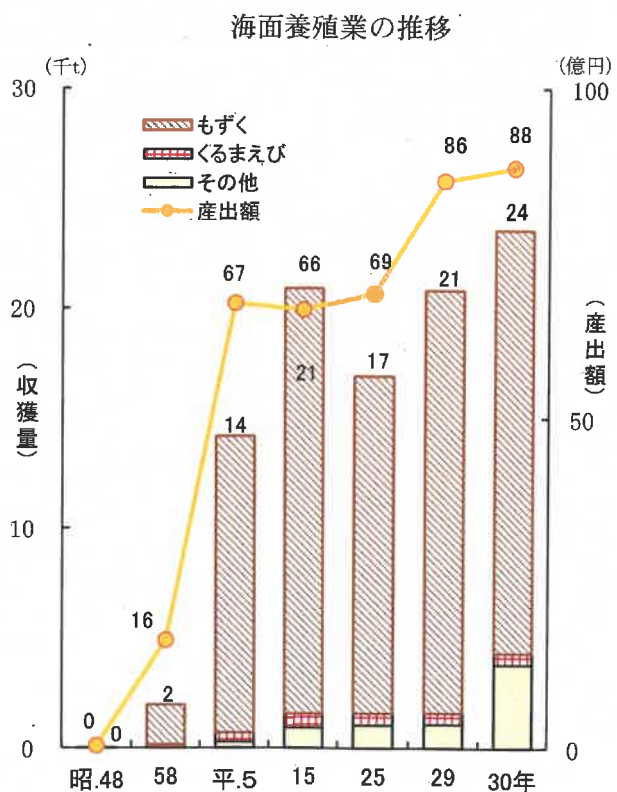
くるまえびの収穫量は、昭和48年以降堅調に推移し、平成30年の収穫量は昭和48年と比べると275倍と大幅に増加しています。

【主要魚種別収穫量及び産出額の推移】

単位：t、百万円

年次	収穫量	くるまえび	もずく類	産出額
昭.48	11	2	—	33
58	1,976	154	1,816	1,633
平.5	14,184	425	13,491	6,742
15	20,909	645	19,336	6,640
25	16,934	560	15,336	6,908
29	20,842	523	19,238	8,563
30	23,579	549	21,868	8,824

資料：農林水産省大臣官房統計部「海面漁業生産統計調査」、『漁業産出額』

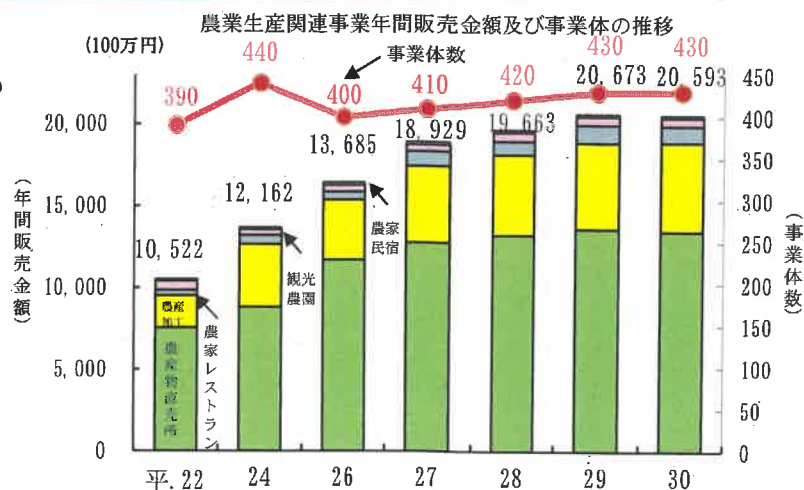


16 農業・農村及び漁業・漁村の6次産業化

1 農業生産関連事業 — 事業体数及び販売金額は横ばい —

本調査が始まった平成22年度から事業体数は、平成24年度まで増加していたものの、その後は、420事業体の前後で推移しています。

一方、年間販売金額は、増加傾向にあり、平成22年度と比べると平成30年度では約1.96倍まで増加しています。また、平成30年度の年間販売金額の約7割は、「農産物直売所」が占めています。



【農業生産関連事業年間販売金額及び事業体数の推移】

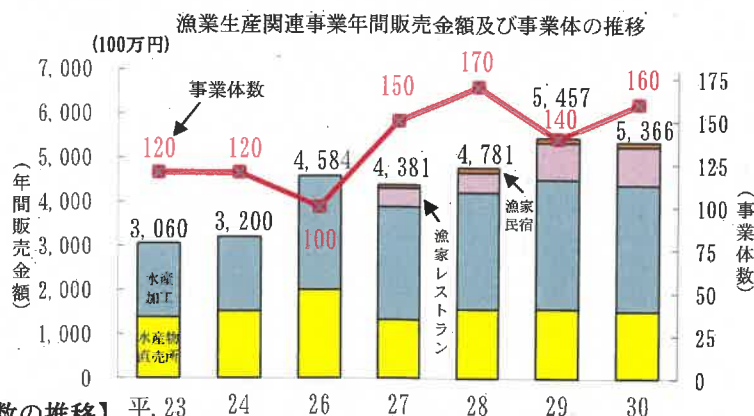
区 分	平. 22	24	26	27	28	29	30
事業体数	390	440	400	410	420	430	430
年間販売金額 (100万円)	10,522	13,685	16,437	18,929	19,663	20,673	20,593
農産加工	1,962	3,850	3,690	4,692	4,914	5,280	5,438
農産物直売所	7,537	8,808	11,687	12,757	13,221	13,609	13,463
観光農園	579	341	405	409	529	540	512
農家民宿	112	138	169	176	160	160	152
農家レストラン	332	549	485	895	839	1,084	1,027

資料：農林水産省大臣官房統計部『6次産業化総合調査』

2 漁業生産関連事業 — 事業体数は増加、販売金額は横ばい —

本調査が始まった平成23年度から事業体数は、平成30年度に1.33倍の160事業体となりました。

一方、年間販売金額は、平成23年度と比べると平成30年度では約1.75倍まで増加しています。また、平成30年度の年間販売金額の約5割は、「水産加工」が占めています。



【漁業生産関連事業年間販売金額及び事業体数の推移】

区 分	平. 23	24	26	27	28	29	30
事業体数	120	120	100	170	170	140	160
年間販売金額 (100万円)	3,060	3,200	4,584	4,781	4,781	5,457	5,366
水産加工	1,678	1,679	2,574	2,639	2,639	2,935	2,856
水産物直売所	1,382	1,521	2,010	1,577	1,577	1,579	1,532
漁家民宿	...	...	...	117	117	107	110
漁家レストラン	...	...	...	448	448	836	868

資料：農林水産省大臣官房統計部『6次産業化総合調査』

※平成27年には、「漁家民泊」、「漁家レストラン」の調査項目を追加。

沖縄の農林漁業主要指標

項 目		単位	数 値	全国からみた 沖縄の地位		時 点	資 料 出 所	
				シェア (%)	順位			
土 地	耕 地 面 積	ha	37,500	0.85	35	令和元年7月15日	耕 地 面 積 調 査	
	田	"	820	0.03	46	"	"	
	畑	"	36,700	1.83	12	"	"	
	林 野 面 積	"	111,196	0.45	42	平成27年2月1日	農 林 業 セ ン サ ス	
人 口 と 労 働 力	総 農 家 数	戸	20,056	0.93	46	平成27年2月1日	農 林 業 セ ン サ ス	
	販 売 農 家 数	"	14,241	1.07	42	"	"	
	専 業 農 家 数	"	7,497	1.69	30	"	"	
	兼 業 農 家 数	"	6,744	0.76	45	"	"	
	林 業 経 営 体 数	経営体	10	0.01	47	"	"	
	漁 業 経 営 体 数	"	2,733	3.46	10	平成30年11月1日	漁 業 セ ン サ ス	
	農 家 人 口 (販 売 農 家)	人	37,642	0.77	45	平成27年2月1日	農 林 業 セ ン サ ス	
	農 業 就 業 人 口 (販 売 農 家)	"	19,916	0.95	42	"	"	
	漁 業 就 業 者 数	"	3,686	2.43	14	平成30年11月1日	漁 業 セ ン サ ス	
	自 家 漁 業 の み に 従 事	"	2,584	2.97	13	"	"	
	漁 業 雇 わ れ	"	1,035	1.85	16	"	"	
農作物の作付（収穫）面積と収穫（出荷）量	水 稲	作付面積	ha	677	0.05	46	令和元年産	水 稲 調 査
		収 穫 量	t	2,000	0.03	46	"	"
	1)野 菜	作付面積	ha	1,990	0.45	45	令和元年産	野 菜 調 査
		収 穫 量	t	40,300	0.31	45	平成28年産	"
	パ イ ン ル ア ッ プ ル	収 穫 面 積	ha	320	100.00	1	令和元年産	果 樹 調 査
		収 穫 量	t	7,460	100.00	1	"	"
	さ と う き び	収 穫 面 積	ha	12,900	58.37	1	令和元年産	甘 味 資 源 作 物 調 査
		収 穫 量	t	676,000	57.58	1	"	"
	き く	作付面積	ha	745	16.59	2	令和元年産	花 き 調 査
		出 荷 量	千本	252,600	17.89	2	"	"
家畜の飼養頭数	乳 用 牛	頭	4,250	0.31	32	令和2年2月1日	畜 産 統 計 調 査	
	肉 用 牛	"	79,700	3.12	9	"	"	
	豚	"	209,800	2.29	13	平成31年2月1日	"	
	採卵鶏（種鶏を除く）	千羽	1,356	0.74	29	"	"	

1) 野菜調査（収穫量）の直近の全国調査は平成28年産であり、次回は令和4年産の予定となっています。
また、野菜調査は全国統一で調査する品目が対象で、ゴーヤー、へちま等は含まれていません。

沖縄の農林漁業主要指標 (つづき)

項 目		単位	数 値	全国からみた 沖縄の地位		時 点	資 料 出 所
				シェア (%)	順位		
農業産出額と生産農業所得	農 業 産 出 額	億円	988	1.08	32	平成30年	生産農業所得統計
	米	〃	6	0.03	46	〃	〃
	野 菜	〃	158	0.68	37	〃	〃
	果 実	〃	60	0.71	35	〃	〃
	パインアップル	〃	12	100.00	1	〃	〃
	工 芸 農 作 物	〃	205	11.48	3	〃	〃
	さとうきび	〃	161	62.65	1	〃	〃
	花 き	〃	88	2.65	11	〃	〃
	畜 産	〃	449	1.38	21	〃	〃
	肉 用 牛	〃	223	3.01	8	〃	〃
	豚	〃	132	2.16	14	〃	〃
鶏	〃	55	0.61	33	〃	〃	
生 産 農 業 所 得	〃	359	1.04	33	〃	〃	
(一戸当たり) 農業経営	農 家 総 所 得	千円	2,998	58.69	…	平成30年	農業経営統計調査
	農 業 所 得	〃	867	49.80	…	〃	〃
	農 外 所 得	〃	1,061	69.08	…	〃	〃
	年 金 等 の 収 入	〃	1,071	58.72	…	〃	〃
林業産出額	林 業 産 出 額	千万円	55	0.12	44	平成30年	林 業 産 出 額
	木 材 生 産	〃	2	0.01	47	〃	〃
	薪 炭 生 産	〃	1	0.28	…	〃	〃
	栽 培 き の こ 類 生 産	〃	51	0.23	39	〃	〃
海面漁業生産量	海 面 漁 業 漁 獲 量	t	15,555	0.46	30	平成30年	海面漁業生産統計調査
	海 面 養 殖 業 収 獲 量	〃	23,579	2.35	…	〃	〃
	合 計	〃	39,134	0.90	…	〃	〃
海面漁業産出額	海 面 漁 業 産 出 額	百万円	12,746	1.36	23	平成30年	漁 業 産 出 額
	海 面 養 殖 業 産 出 額	〃	8,824	1.82	…	〃	〃
	合 計	〃	21,570	1.51	…	〃	〃
漁 船 隻 数	隻	2,947	2.23	19	平成30年11月1日	漁 業 セ ン サ ス	

注：農業経営（1戸当たり）のシェア（％）については、全国平均の数値に対する比較です。

統計データを見るなら

《各種ホームページの紹介》

農林水産省



【農林水産省 統計情報】

農林水産省が実施している統計調査結果が閲覧できます。

<http://www.maff.go.jp/j/tokei/>

農林水産部

【沖縄総合事務局 統計情報】

農林水産省が実施している統計調査結果のうち、沖縄の農林水産業に関する統計調査結果を掲載しています。

<http://www.ogb.go.jp/nousui/toukei/>

e-Stat

政府統計の総合窓口

【e-Stat 政府統計の総合窓口】

農林水産省を含む、政府が実施している統計調査の総合窓口です。

<http://www.e-stat.go.jp>

ただし、ホームページ上の情報は予告なしに内容を変更又は削除する場合があります。あらかじめ御了承ください。

統計データから見た沖縄の農林水産業

令和3年2月 発行

編集・発行者 内閣府沖縄総合事務局農林水産部統計調査課
〒900-8530 沖縄県那覇市おもろまち2丁目-1-1
TEL 098-866-0031(代) 内線 83401